家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十四條　歸休兵演習又ハ臨時兵員補欠ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其ノ他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百二十六條　第百十八條第百十九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

（參照）第百十八條第百十九條及第百二十條第一項ハ第百二十五條參照中ニアリ

第百二十七條　警備隊兵卒砲兵助卒砲兵輸卒輜重輸卒ニシテ在營期限滿チ退營後尚現役中ニ在ル者ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス其ノ在鄉中ハ第百十四條乃至第百二十六條ノ規定ニ從フ者トス

（參照）第百十四條　歸休兵在鄉中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ編入スル者トス

第百十五條　歸休兵在鄉中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百十六條　歸休兵ハ臨時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ每年一度簡閲點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補欠ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第百十七條　歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ

第百十八條乃至第百二十六條ハ第百二十五條以下ニ掲記シアリ

第四章　兵卒ノ服役　第三款　豫備役及後備役

第百四十三條　第百三十五條第三項但書第百三十七條第一項及第二項第百三十八條第一項及第三項第百三十九條乃至第百四十二條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢上以一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

（參照）第百三十五條　豫備役後備役兵卒ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閲點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後寄留後出願ノ者三日以内ニ豫備役後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百三十七條　現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發

シ一日行程十里詰ヨリ尠カラサル日數間ニ歸鄉シ著後七日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滯在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ成年以上ノ男子ニ限ル市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出テ歸鄉シタルトキハ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ滯在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百三十八條　豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ル市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

出テ歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ聯アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到著後二十四時以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百三十九條　豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百四十條　豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長助役收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百四十一條　豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ失踪者ノ歸鄉シタルトキト亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百四十二條　豫備役後備役兵卒重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタル時ハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百四十四條　第百三十七條第百三十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

（參照）第百三十七條第百三十八條ハ第百四十三條參照中參看

第五章　補充兵ノ服役

第百五十六條　第百四十九條第三項但書第百五十一條第一項及第三項第百五十二條乃至第百五十五條ノ届出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

（參照）第百四十九條　第一補充兵ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閲點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市村町長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後寄留受出願ノ者三日以内ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其旨ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ指令書受領後

第百五十一條　補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シ前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若ハ後備軍召集ノ命アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到著後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百五十二條　第一補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯

隊區司令官ニ届出ヘシ

第百五十三條　第一補充兵ニシテ市町村長助役收入役トナリ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百五十四條　補充兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十五條　補充兵重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名刑期ヲ記シ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十七條　第百五十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

（參照）第百五十一條ハ第百五十六條參照中參看

第百六十八條　本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第百六十七條　陸軍豫備後備將校服役條例　陸軍豫備後備下士兵卒服役條例　陸軍現役下士上等兵再服役條例　陸軍歸休兵條例及明治廿二年勅令第三十七號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

琉球國那覇港ニ於テ清國貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸ノ特許

明治二十七年五月　法律第三號

明治二十七年十月一日ヨリ琉球國那覇港ニ於テ清國貿易ニ關スル帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ積卸ヲ許ス

但船舶ノ出入及貨物ノ積卸ニ關シテハ稅關法及稅關規則ヲ適用ス

（參照）稅關法及稅關規則參看

屋外窃盗律

明治二十三年十月八日
法律第九十九號

第一條　家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盗ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條　田野山林川澤池沼湖海ニ於テ其産物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條　前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム

但贓物現存セサルトキハ其中等ノ價額ニ據ル可シ

（參照）刑法第三百六十六條乃至第三百七十七條參看

隱田切開地添地處分方

明治九年五月十二日
布告第六十七號

第四條　前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スル者及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

（參照）第三條　官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ證アル地ヲ私ニ田畑宅地ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者ヘ素地相當代價ヲ以可拂下其民有トナシ難キモノハ直ニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許ス儀モコレアルヘシ

第六條　凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ係ル分地租改正濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律ニ照シ處分スヘシ

（參照）罰則處斷方參看

大藏省證券條例

明治十七年九月二十日
布告第二十四號

第十二條　大藏省證券ヲ僞造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

（參照）刑法第二百四條　公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ僞造シ又ハ增減變更シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

沖縄縣酒類出港稅則

明治二十一年三月二十一日
勅令第十二號

第六條　出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣ヘ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第七條　第四條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第四條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ屆出ヘシ那覇港外地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ屆出ヘシ

第八條　主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條　前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乘組人ノ所犯ニ係ルモノト雖トモ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條　此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

明治二十一年七月七日
大藏省令第七號

第四條　主任官船舶ノ檢査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條　出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海軍刑法

第一編　總　則

第一章　法例

第一條　此刑法ニ於テ罰スヘキ罪別テ二種トス

一　重罪

二　輕罪

第二條　此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條　第八十四條第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第百二條第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百二十七條第百二十八條第百二十九條第百三十條第百三十一條第百三十二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖トモ此刑法ニ依テ處斷ス

教唆若クハ幇助シテ第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條　敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス

第五條　此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第百三十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

（參照）刑法第二節　毆打創傷ノ罪

第二百九十九條　人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條　人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條　人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヿ能ハサルニ致ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重錮禍ニ處ス其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス疾病休業ニ致ラスト雖モ身体ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重錮禁ニ處ス

第三百二條　業ヲ人ヲ毆打創傷シ休業疾篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條　重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カルヽ爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條　毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條　二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ爲スノ輕重ヲ知ルヿ能ハサルトキハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限リニ在ラス

第三百六條　二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ毆ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條　健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ環メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條　人ヲ殺スノ意ニ非スト雖トモ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第二章　刑例

第一節　刑名

第六條　刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條　左ニ記載シタル者ヲ重罪ノ主刑ト爲ス

一　死刑
二　無期徒刑
三　有期徒刑
四　無期流刑
五　有期流刑
六　重懲役
七　輕懲役
八　重禁獄
九　輕禁獄

第八條　左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一　重禁錮
二　輕禁錮

第九條　左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一　剝奪公權
二　剝官
三　停止公權

四　禁治產
五　監視
六　沒收

第二節　主刑處分

第十條　主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條　死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第十二條　海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヿヲ得ス

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヿヲ得

第十三條　前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第十四條　大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヿヲ禁ス

第十五條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條　死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヿヲ許サス

第十四條　徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第廿條第廿一條第廿二條第廿三條第廿四條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第十七條　徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條　徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス內地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條　徒刑ノ囚六十歲ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條　流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條　無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヿヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條　懲役ハ內地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歲ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條　禁獄ハ內地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條　禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

輕錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第十五條　定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ

但シ此刑法及普通刑法陸軍刑法ノ禁錮ニ處シ職役ヲ免セサル者ハ工錢ヲ與フル限ニアラス

（參照）刑法第二十五條　定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其裁分ヲ獄舍ノ費用ニ供シ其殘分ヲ囚人ニ給與ス但シ現役百日以內ハ給與ノ限ニ在ラス

第三節　附加刑處分

第十六條　附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條　剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第三十一條　剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一　國民ノ特權

二　官吏ト爲ルノ權

三　勳章年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權

四　外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五　兵籍ニ入ルノ權

六　裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七　後見人ト爲ルノ權但親族ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニアラス

八　分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及共有財產ヲ管理スルノ權

九　學校長及ヒ教師學監ニ爲ルノ權

第三十二條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

海軍刑法

第十八條　剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條　將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルヿヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖トモ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條　普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖トモ下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條　禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フヿヲ停止ス

第二十二條　禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第三十五條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自カラ財産ヲ治ムルヿヲ禁ス

第三十六條　流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヿヲ得

第二十三條　監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第三十七條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

第三十八條　輕罪ノ刑ニ付加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヿヲ得ス

第三十九條　死刑及無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條　監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條　監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヿヲ得

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第三十四條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第三十四條　輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フヿヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

第二十四條　下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖トモ監視ニ付セス

第二十五條　沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第四十三條　左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ

沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一　法律ニ於テ禁制シタル物件

二　犯罪ノ用ニ供シタル物件

三　犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條　法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヿヲ得ス

第四節　刑期計算

第二十六條　刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第四十九條　刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時間ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條　刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スル事ヲ得ス

第五十一條　刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一　犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二　檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三　上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヿヲ得ス

第五十二條　刑期限內逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第五節　假出獄

第二十七條　假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第五十三條　重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過セルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヿヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條　徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルルト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條　假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治產ノ禁ノ幾分ヲ免セルヿヲ得但本刑期限內特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十六條　假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヿヲ得ス

第五十七條　刑期限內更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第六節　期滿免除

第二十八條　期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二

條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第五十八條　刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條　主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一　死刑ハ三十年
二　無期徒流刑ハ二十五年
三　有期徒流刑ハ二十年
四　重懲役重禁獄ハ十五年
五　輕懲役輕禁獄ハ十年
六　禁錮罰金ハ七年
七　拘留科料ハ一年

第六十條　剝奪公權停止公權及監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ滿期免除ノ限ニ在ラス

第六十一條　期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條　刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ命狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第七節　復權

第二十九條　復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第六十三條　公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヿヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條　大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因リテ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條　復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第三章　加減例

第三十條　此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十一條　第九十九條第百四條第百五條第百六條第百七條第百三十三條第百三十四條第百三十五條第百三十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑
二　無期徒刑
三　有期徒刑
四　重懲役
五　輕懲役

第三十二條　前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑
二　無期流刑
三　有期流刑
四　重禁獄
五　輕禁獄

第三十三條　輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條　禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス
禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖トモ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條　禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條　重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス

輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖トモ本輕剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章　不論罪及ヒ減輕

第一節　不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條　不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第七十五條　抗拒ス可カラサル强制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス
天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ
第七十六條　本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス
第七十七條　罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但シ法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス
罪ト爲ス可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヿヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヿヲ得ス
第七十八條　罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス
第七十九條　罪ヲ犯ス時十二歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歲以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヿヲ得

第八十條　罪ヲ犯ス時滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヿヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條　罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條　瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヿヲ得

第三十八條　此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節　自首減輕

第三十九條　自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第八十五條　罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十八條　此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節　酌量減輕

第四十條　重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヿヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖トモ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章　再犯加重

第四十一條　再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第九十一條　先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條　先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十四條　再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヿヲ得ス

第九十五條　刑期限內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時先ツ其重キ者ヲ執行ス

第九十七條　大ケニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

第九十八條　三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第四十二條　再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第六章　加減順序

第四十三條　加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第九十九條　犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一　再犯加重
二　宥恕減恕
三　自首減恕
四　酌量減恕

第七章　數罪俱發

第四十四條　數罪俱發ハ普通刑法第百條第百二條第百三條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第　條　重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從ヲ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第百二條　一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯

ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第百三條　數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第四十五條　此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從テ處斷ス

第四十六條　此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖トモ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章　數人共犯

第四十七條　數人共犯ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第百三十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

（參照）刑法第百四條　二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第百五條　人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第百六條　正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヿヲ得ス

第百七條　犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スヿヲ得ス

第百八條　事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一　所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二　所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第百九條　重罪輕罪ヲ犯スヿヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第百十條　身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヿヲ得ス

第四十八條　軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖トモ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章　未遂犯罪

第四十九條　未遂犯罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第百十一條　罪ヲ犯サンヿヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第百十二條　罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ外錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第百十三條　重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヿヲ得ス

違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章　名稱例

第五十條　軍人ト稱スルハ將官及同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

豫備後備ノ軍籍ニアル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第五十一條　軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第五十二條　司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條　上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖トモ命令ヲ下スヘキ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第五十四條　守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條　親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

（參照）刑法第百十四條　此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一　祖父母父母夫妻
二　子孫及ヒ其配偶者
三　兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者
四　兄弟姉妹ノ子及其其配偶者
五　父母ノ兄弟及ヒ其配偶者
六　父母ノ兄弟姉妹ノ子
七　配偶者ノ祖父母父母
八　配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
九　配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
十　配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條　祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ

養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編　重罪輕罪

第一章　反亂

第五十六條　軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖トモ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條　軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條　軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ依リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條　軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥

糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條　軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ秘密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十一條　軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供スヘキ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條　軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條　軍人敵ノ爲ニ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條　軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條　軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條　軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條　軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條　軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處

ス

第六十九條　軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第七十條　軍人前數條ニ載記シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十一條　軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十二條　軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章　辱職

第七十三條　司令官猶ホ防守スルヲ得可キ時ニ於テ敵ニ降リ又ハ其艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條　司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船若クハ兵隊ヲ率并遁走シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條　司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈沒シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十六條　司令官其艦船破亡沈沒スル時ニ當リ故ナク衆ニ先タチテ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二　軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三　其他ノ場合ニ在テハ輕禁獄ニ處ス

第七十七條　司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁獄ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條　司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略ヲ盡サスシテ之ヲ沈沒シ若クハ損壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條　司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲サヽル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

敵前ニ在テ我船舶ヲ救援スヘキ時故ナク其事ヲ爲サヽル者亦同シ

第八十條　司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乘入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十一條　司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ委棄シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二　軍中ニ在テハ重禁獄ニ處ス

三　其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條　前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二　軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三　其他ノ場合ニ在テハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條　將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎭定ノ方ヲ盡サヽル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十四條　軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十五條　司令官內外國ノ船舶海岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章　抗命

第八十六條　軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二　軍中又ハ攔岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三　其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十七條　軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二　軍中又ハ海岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三　其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章　暴行

第八十八條　軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十九條　軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ首魁ハ重禁獄ニ處ス其

他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十條　軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第九十一條　軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ

第九十二條　軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

第九十三條　軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期流刑ニ處ス

第九十四條　軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十五條　軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス
首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ處ス

第九十六條　軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條　軍人多數結合シテ相鬪毆シタル者ハ首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十八條　軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十九條　軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章　悔辱

第百條　軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル時ハ一等ヲ加フ

第百一條　軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二條　軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百三條　軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章　燒燬毀壞

第百四條　軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬪ノ用ニ供スル屋舍若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第百五條　軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス

二　其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第百六條　軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七條　軍人艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬪ノ用ニ供スル屋舍若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百八條　軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百九條　軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章　擅權

第百十條　司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第百十一條　司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナク擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章　違令

第百十二條　司令官艦船若クハ兵隊ヲ率ヰ故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二　軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

三　其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第百十三條　將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二　軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ六月以上二

年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三　其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十四條　將校艦船ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二　軍中又ハ航海中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十五條　守兵守所ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二　軍中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三　其他ノ場合ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十六條　軍人艦船ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タス其艦船ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來ラス若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍人某地ニ滯在スヘキコトヲ命セラレ擅ニ其地ヲ離レ十日ヲ過キタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十七條　軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

二　軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三　其他ノ場合ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十八條　軍人鬪戰ノ號報アル時故ナク其集場合ニ來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十九條　軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ十日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十條　歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二　其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十一條　徵兵募兵故ナク徵集ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二　其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條　司令官事變ニ因リ已ムコトヲ得ス暗號記號ヲ改メ又ハ配置セラレタル

地若クハ其命セラレタル所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十三條　軍人命ヲ受ケス艦船內ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但破壞若クハ危險ニ罹リタル船舶ノ商貨ヲ保護スル爲メ移積シタル者ハ此限ニ在ラス

第百二十四條　守兵妄リニ銃礮ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十五條　軍人禮礮號礮其他空礮ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵瓦石等ヲ裝塡シテ發射シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百二十六條　軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若シクハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十七條　軍人敵前軍中ニ在テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百二十八條　軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁獄ニ處ス

第百二十九條　軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁獄ニ處ス

第百三十條　軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百三十一條　軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致シタル者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百三十二條　軍人逃走ノ俘虜降人ナルヿヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第九章　逃亡

第百三十三條　軍人擅ニ艦船屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ逃亡ト爲シテ處斷ス

一　敵前ニ在テハ輕懲役ニ處ス

二　軍中ニ於テ三日ヲ過キタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

三　其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百三十四條　軍人四人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕懲役ニ處ス

二　軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ首魁ハ輕懲役ニ處ス其他ノ者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

三　其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

四　軍人故ナク發艦ノ期ニ後レタル者ハ其經過日數ヲ問ハス逃亡ト爲シ前條ノ例ニ從ヒ其四人以上相黨與シタル者ハ本條ノ例ニ從テ處斷ス

第百三十五條　軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス

第十章　詐僞

第百三十六條　軍人敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受ケ詐僞ノ報告ヲ爲シタル者又ハ戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百三十七條　軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第百三十八條　海軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體强弱ノ僞證ヲ爲シタル者ハ二

月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第百三十九條　軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ルヽヿヲ圖リタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

海軍懲罰令

明治二十二年十二月
勅令第百三十四號

第一條　本令ハ軍人ノ故意疎虞懈怠過失等ノ所爲ニシテ刑法ニ該ラサル者及素行修ヽラス軍人ノ體面ヲ汚ス者ヲ懲戒スルノ罰典トス但シ他ノ法律規則ニ依テ論スヘキ者ハ各其法律規則ニ從フ

第二條　司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官軍港司令官要港司令官艦隊司令長官艦隊司令官ヲ謂フ

第三條　艦團隊長ト稱スルハ海軍全般ノ艦船團隊ノ長ヲ謂フ

第四條　各廳長ト稱スルハ海軍大臣ニ直屬スル各廳ノ長司令官ニ直屬スル參謀長部長及ヒ其他ノ長ヲ謂フ

第五條　所轄長ト稱スルハ各廳長ニ屬スル校部所及監獄等ノ長ヲ謂フ

第六條　司令官艦團隊長及各廳長ハ部下軍人ノ本令ヲ犯シタル者ヲ處分ス

第七條　艦團隊副長及ヒ所轄長ハ部下ノ准士官十日以内ノ謹愼下士二十日以内ノ禁足卒三十日以内ノ禁足ニ該ル者ヲ處分ス分隊長及分隊長ニ同シキ職權ヲ有スル者ハ部下ノ下士十日以内ノ禁足二十日以内ノ禁足ニ該ル者ヲ處分ス

第八條　懲罰權ノ全部ヲ有セサル各官部下軍人ノ犯行權限外ノ日數ニ該ルト認ムルト

キハ意見ヲ附シテ上官ニ具申シ其處分ヲ請フヘシ

第九條　候補生及軍屬本令ヲ犯シタル時ハ軍人ト同シク處分ス海軍所屬ノ生徒乘艦中本令ヲ犯シタル時亦同シ但奏任官及候補生ハ將校ト同シク處分シ判任官ハ准士官ト同シク處分シ生徒ハ下士ト同シク處分シ其他ノ軍屬ハ卒ト同シク處分ス

第十條　罰目左ノ如シ

一　謹慎

二　禁足

謹慎ハ准士官以上ニ科スル罰トシ禁足ハ下士以下ニ科スル罰トス

第十一條　謹慎ハ居宅又ハ艦團隊校内ニ於テス

居宅ニ於テスルモノハ他出及ヒ外人ト接見通信スルヲ禁ス但疾病アレハ醫ヲ延クコトヲ得

艦團隊校内ニ於テスル者ハ外出及ヒ他人ト會集通信スルヲ禁ス

謹慎ハ一日以上三十日以下トス

第十二條　禁足ハ勤務及演習ノ外艦團隊校若クハ居宅ヲ出ツルコトヲ禁ス

禁足ハ一日以上三十日以下トス

第十三條　軍中令圍ノ地若クハ艦團隊校内ニ在テハ謹慎ニ處セラレタル者ヲシテ勤務

ニ服セシムルコトヲ得其勤務日數ハ謹慎日數ニ算入ス

第十一條　ノ規則ハ前項ノ場合ニ於テ亦之ヲ適用ス但其勤務ニ關シテハ此限ニアラス

第十四條　犯行二個以上俱ニ發スルトキハ各其罰ヲ科ス但一所爲二個以上ノ犯行ニ觸ルヽトキハ其一ヲ科ス

第十五條　本令ニ依リ處分シタル軍屬ノ犯行ハ官吏服務規律ニ觸ルヽモ懲戒處分ヲ爲スコトナシ

第十六條　甲所ニ於テ本令ヲ犯シ未タ處分ヲ受ケスシテ乙所ニ轉シタル者ハ甲所其罰ヲ議定シ乙所之ヲ處罰ス

第十七條　本令ヲ犯シタル者未タ處分ヲ受ケスシテ現役ヲ離レ若クハ非職ト爲リ若クハ海軍ノ名籍ヲ除カレタルトキハ其罰ヲ科セス

第十八條　犯行ノ科目左ノ如シ

一　擅ニ艦船團隊校ヲ離レ若クハ職役ヲ離レ又ハ勤務ヲ缺キ若クハ之ヲ懈リタル者

二　職務ノ權限ヲ侵シ若クハ之ヲ誤リタル者

三　成規ニ違ヒタル處置ヲ爲シ若クハ命令ヲ怠リ若クハ之ヲ誤リ若クハ之ヲ誤リ傳ヘタル者

四　秘密ノ事件ヲ漏洩シタル者
五　上申下達其他定期アル事件ヲ稽延シタル者
六　服順ノ道ヲ失ヒタル者
七　演習集合期ニ後レ若クハ之ニ會セサル者
八　徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到著ノ期限ニ後レタル者
九　允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期限ニ後レタル者
十　言語所爲詐僞ニ涉ル者
十一　暴行脅迫シタル者
十二　濫ニ銃砲ヲ發シ又ハ劒ヲ拔キタル者
十三　罵詈侮慢若クハ鬪爭シタル者
十四　犯罪アルコトヲ知テ之ヲ隱庇シタル者
十五　人ヲ懲罰ニ陷ル爲メ申告ヲ爲シタル者
十六　疎虞、懈怠、過失ニ因テ官ノ文書若クハ器具物品ヲ毀損亡失若クハ汚シタル者
十七　圖書計算ヲ誤リタル者
十八　各自擔當ノ鎖鑰ヲ怠リタル者
十九　兵器彈藥器械船具糧餉其他物品ノ調製貯藏運搬若クハ支給ノ法ニ違ヒ若クハ

之ヲ誤リタル者
二十　故ラニ糧食分配ノ不平均ヲ致シタル者
二十一　官物ヲ濫用若クハ浪費シタル者
二十二　兵器其他物品ノ配置保存法ニ違ヒタル者
二十三　允許ヲ得スシテ官給其他渡付ノ物品ヲ貸借シタル者
二十四　受寄ノ財物若クハ借用物ヲ典却シタル者
二十五　下士卒定數ノ被服ヲ所持セサル者
二十六　守兵ニ對シ濫ニ談話ヲ爲シ又ハ之ニ戲レタル者
二十七　酩酊シテ事ヲ省セサル者
二十八　軍人其態度ヲ失シタル者
二十九　禮節式ニ違ヒタル者
三十　服裝式ニ違ヒ又ハ制規外若クハ命令外ノ服ヲ著シタル者
三十一　法則命令ヲ誹謗シ若クハ之ニ違ヒタル者
三十二　素行修マラサル者
三十三　疎虞懈怠過失ニ因リ艦船若クハ其他ノ物件ヲ毀損シ或ハ艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シタル者

三十四　艦船ノ乗員不能ニ因リ其艦船ヲ棚岸坐礁其他危險ニ付シ若クハ之ヲ毀損シタル者

三十五　允許ヲ得サル物品ヲ艦船ニ積載セタル者

三十六　砲具其他凭ル可カラサル場所ニ凭リタル者

三十七　艦船團隊校内ニ於テ巡檢後故ナク寢所ヲ離レタル者

三十八　艦船團隊校内ニ於テ濫ニ他人ノ室ニ入リタル者

三十九　艦船團隊校内ニ於テ濫ニ庖厨ニ入リタル者

四十　艦船團隊校内ニ於テ允許ヲ得スシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ携帶シタル者

四十一　艦船團隊校内ニ於テ定所外ヨリ物品ヲ出入若クハ投棄シタル者

四十二　艦船團隊校若クハ工場内ニ於テ醜行ヲ爲シタル者

四十三　舷側柵塀牆壁等ニ貼紙又ハ樂書シタル者

四十四　允許ヲ得スシテ艦船團隊校内ニ酒類ヲ入レ又ハ艦船團隊校内ニ於テ酒類ヲ授受若クハ賣買シ又ハ工場内ニ於テ飲酒シタル者

四十五　擅ニ艦船團隊校内ニ於テ鳥獸類ヲ蓄ヒ又ハ工場内ニ於テ濫ニ菓實貝藻ヲ採取シ若クハ樹木花卉ヲ折採シ又ハ魚鳥ヲ捕ル者

四十六　艦船團隊校内ニ於テ濫ニ定所外ニ睡眠シ又ハ工場内ニ於テ就業時間中睡眠

シタル者

四十七　濫ニ砲門ヨリ艦内ニ出入シ又ハ柵塀牆塀等ヲ踰越シテ團隊校工場構内ニ出入シタル者

四十八　濫ニ團隊校工場構内ニ立入リ故ナク諸方ヲ徘徊シ又ハ構内海岸ヘ着船シタル者

四十九　艦船團隊校内ニ於テ定所外ニ飲食シ又ハ工場内ニ於テ就業時間中喫飯若クハ喫飯ノ準備ヲ爲シタル者

五十　艦船團隊校工場内ニ於テ定時限ノ外又ハ禁制ノ場所ニ於テ燈火其他ノ火ヲ用ヒ又ハ火ノ取扱ヲ疎ニシ若クハ吸烟シタル者

五十一　守所又ハ整列就業中ニ在テ喧噪戲謔若クハ雜話シタル者

五十二　艦船團隊校若クハ工場内ニ於テ定所外ニ屎尿シタル者

五十三　濫ニ裸體トナリタル者

五十四　工場内ニ於テ濫ニ禁止ノ場所ニ立入リタル者

五十五　工場内ニ於テ火ノ始末ヲ爲サスシテ退散シ又ハ濫ニ焚火シタル者

五十六　工場内ニ於テ濫ニ遊戲放歌シ又ハ高聲ヲ發シタル者

五十七　工場内ニ於テ賭勝負及ヒ之ニ類スル所爲ヲ爲シタル者

五十八　工場内ニ在テ碁、將棋、雙六、骨牌等ノ戯具ヲ携帶シタル者

五十九　就業時間中私用ノ物品ヲ製造シ若クハ他人ノ依頼ニ應シ之ヲ製造スル者又ハ之ヲ依頼シ及依頼ヲ紹介シタル者

六十　就業時間中濫ニ他ノ工場ニ至リ若クハ他人ノ工業ヲ妨害シ若クハ自己ノ工業ヲ休止シタル者

六十一　工場内ニ於テ各自使用スヘキ器具材料ヲ整頓セスシテ散亂セシメタル者

六十二　工場内ニ於テ掲示、標札、其他諸報告榜標等ヲ毀損シタル者

六十三　工場内ニ於テ瓦礫等ヲ抛チタル者

六十四　工場内ニ於テ故ラニ職札ヲ毀損シ或ハ紛失セシメ又ハ札場ニ於テ投擲シタル者

六十五　工場内ニ於テ職札ノ掛ケ外シヲ他人ニ依頼シタル者及ヒ之ヲ承諾シテ掛ケ外シヲ爲シタル者

第十九條　練習所、病院、監獄ニ於テ犯行ノ者ハ艦團校内ニ於ケル犯行ト同シク處分スヘシ

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

明治九年四月十九日布告五十七號

第五條　贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ中立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

（參照）本書罰則處斷方參看

鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方

明治九年五月八日 大藏省達乙第四十號

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲載ノ通リ鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞ハヽ該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換遣ハシ追テ右改人ヨリ差出セシ書面ヘ現札添紙幣寮ヘ交換申出ヘシ尤モ交換手數料ハ別段下與不致儀ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混樣區別可致候此旨相達候事

但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ十圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ贋摸ノモノニ付右ハ贋札ヲ以テ處分可致候

（參照）贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條　鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ

火藥取締規則

明治十七年十二月二十七日
布告第三十一號

第二十五條　私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス

（參照）刑法第百五十七條　官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法第百六十條　第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　刑法第百五十八條第百五十九條第百六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

（參照）刑法第百五十八條　前條ノ罪ヲ犯スト雖トモ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

仝第百五十九條　前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

仝第百六十一條　第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ

其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ没收ス

仝第百五十七條ハ第二十五條參照參看

第二十七條　私ニ火藥庫又假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス（十九年勅令第六十七號ヲ以テ本條中ヲ削ル）

（參照）第四條　管轄廳（東京府ハニ於テ警視廳）ハ警察官ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第五條　戰時若クハ事變ニ際シテハ「陸軍卿海軍卿」ハ火藥類ノ拂下ケヲ停シ「內務卿」ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第九條　營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス

但十六歲未滿者クハ白痴風癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條　火藥類ヲ買受ントスルトキ銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍々人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種數量幷ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可

證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但シ一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス（十九年勅令第六十七號ヲ以テ本條並ニ各項トモ改正）

小銃用火藥	三百目	雷管	五百箇
船舶設備銃砲用	大砲一門ニ付小銃一挺ニ付	火藥	五十發分
烟火製造用	五貫目	導火管類	七十個
坑業土工其他職業用	火藥二百貫目	雷管	百發分
	劇發火藥三十貫目		百五十個

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量幷ニ使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ內務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ直チニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第十一條　營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ユルコトヲ許サス

第十三條　火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百箇迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹量目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十九條　火藥庫ヨリ十四間以內ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス

第二十一條　烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第二十九條　第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

（參照）第六條　火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日沒後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第七條　營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アラハ翌月十日迄ニ之ヲ添ヘ所轄警察署ニ届出可シ

第八條　營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取リ置ク可シ

第十二條　營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ證書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ之ヲ添ヘ

第十四條　火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之區畫ス可シ

第十八條　火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フヘカラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺六尺以上ニシテ五寸ヲ建ツ可シ角以上ノモノ

第二十二條　貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及

水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納スヘシ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條　五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ莚包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ヲ建テ護送人ヲ附スノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺

可シ但船積スル時ハ明治六年八月第二百九十二號布告危害品船積法ニ從フ可シ

危害品船積法則　一火藥硝石硫黄ノ類及發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候ヒハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

一尋常之品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ知キ危害品可有之ト見受候ヒハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視査スルノ權利可有之事

但爲視査發包シタル荷物中ニ危害品無之ヒハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故之如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之ヒハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出スヒハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

火藥取締規則

一此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ著港ノ上直チニ其次第書及荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事

一船長及運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セントスル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘ𪜈官ニ訴ヘ出サルトキハ金二百圓以内ノ罰ニ處スヘキ事

第二十四條　火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第三十條　營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

海難取調手續

明治二十六年三月三日
逓信省令第五號

第六條　船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ニシテ第二條ノ規定ニ違背シ海難ノ届出ヲ爲サヽルモノハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第二條　船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタルトキハ書面又ハ口頭ヲ以テ遭難地又ハ遭難後始メテ着港シタル地ノ船舶司檢所又ハ警察署（船舶司檢所ナキ地方ニ限ル）ヘ直ニ其事由ヲ届出ツヘシ

外國航海中海難届出手續

明治二十八年一月十四日
遞信省令第一號

第三條　第一條ノ規程ニ違背シ海難ノ届出ヲ爲サヽル者ニハ明治二十六年遞信省令第五號第六條ノ罰則ヲ適用ス

（參照）第一條　船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ外國ニ於テ海難ニ罹リタルトキハ遭難地又ハ遭難後始メテ著港シタル地ノ帝國領事ニ其事由ヲ届出ヘシ

海難取調手續第六條　船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ニシテ第二條ノ規定ニ違背シ海難ノ届出ヲ爲サヽル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

海技免狀取扱規則

明治三十年五月二十四日
遞信省令第八號

第十二條　第四條第五條第六條若ハ第八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第四條　當該官吏若ハ公吏ニ於テ海技免狀ノ檢閲ヲ要スルトキハ海技免狀受有者ハ直ニ之ヲ提供スヘシ

第五條　氏名若ハ族籍ヲ變更シ又ハ生年月日ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ原籍市區町村長外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受ケ二箇月以内ニ事由ヲ具シ最寄船舶司檢所若クハ司檢所支部ヲ經由シテ遞信省ニ登錄ノ變更並ニ海技免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

原籍地ヲ變更スルモ族籍ニ異動ヲ生セサルトキハ當該市區町村長外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受ケ二箇月以内ニ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支部ヲ經由シテ遞信省ニ届出ツヘシ

第六條　海技免狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ二箇月以内ニ事由ヲ具シ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支部ヲ經由シテ其再授ヲ遞信省ニ申請スヘシ

第八條　海技免狀無効トナリタルトキハ本人ニ於テ三十日以内ニ事由ヲ具シ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支部ヲ經由シテ該免狀ヲ遞信省ニ返納スヘシ

本人失踪若クハ死亡シタルトキハ海技免狀ノ保管者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

附則

第十三條　此規則ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條　此規則施行以前ニ於テ第五條第六條若クハ第八條ニ掲クル場合ニ該當シタル者ニシテ未タ其手續ヲ了セサルトキハ此規則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ其手續ヲ爲スヘシ

本條ニ違背シタル者ニハ第十二條ノ罰則ヲ適用ス

海員懲戒法

明治二十九年四月六日
法律第六十九號

第四十六條　海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲メ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡サヽルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條　證人トシテ海員審問所ニ呼出サレタル者僞證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐欺ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ法方ヲ以テ人ニ託囑シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十八條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

外國船乘込規則

明治九年三月十八日
布告第三十號

第七條　乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第九條　右地方廳ハ兼テノ船場要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ內國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

（參照）罰則處斷方參看

海外諸港ヨリ來ル船舶檢疫施行方

明治廿四年六月勅令第六十五號

第三條　第一條ノ尋問ヲ拒ミ又ハ第二條ニ違背シ其他本令ノ執行ヲ妨害シタルモノハ刑法ニ依テ處分セラルヘシ

（參照）第一條　虎列刺病流行地方ニアラサルモ該病傳播ノ虞アリト認メ內務大臣ニ於テ特ニ指定シタル外國諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテハ檢疫官ヲシテ該病患者又ハ該病死者ノ有無ヲ尋問セシム

第二條　若シ船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヘシ其死者ハ若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乘組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フヘシ

（參照）保稅倉庫法參照參看

開港外ニ於テ外國貿易ノ爲メ船舶出入及貨物輸出入ニ關スル件

明治二十九年三月廿六日
法律第十八號

第二條　前條船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ニ關シテハ稅關法及稅關規則ヲ適用ス

（參照）第一條　開港外ニ於テ外國貿易ノ爲メ帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲スヘキ港ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照）稅關法及稅關規則ヲ參看

害蟲驅除豫防法

明治二十九年三月二十四日
法律第十七號

第一條　此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第十一條　第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

（參照）第三條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其費用ヲ徴收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徴收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

市制第百二條　市ニ於テ徴收スル使用料手數料（第八十九條）市稅（第九十條）夫役ニ代フル金圓（第百一條）共有物使用及加入金（第八十四條）其他市ノ收入ヲ定期內ニ納メサルトキハ市參事會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徴收スヘシ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徴期滿得免及先取權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

町村制第百二條　町村ニ於テ徴收スル使用料手數料（第八十九條）町村税（第九十條）夫役ニ代フル金圓（第百一條）共有物使用料及加入金（第八十四條）其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國税滞納處分法ニ依リ之ヲ徴收スヘシ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

納税者中無資力ナルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納税延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徴期滞得免及先取特權ニ付テハ國税ニ關スル規則ヲ適用ス

第十二條　第六條及第八條ニ依レル官吏若クハ其指揮ヲ承タル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

（參照）第六條　府縣知事ハ驅除豫防ノ爲メ必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈刈秣雑草ヲ拔棄若ハ燒棄ルコトヲ得

第八條　土地所有者管理者又ハ使用者ハ官吏及其指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入リ驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第十條　蟲類以外ノ動物ト雖トモ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此法律ヲ適用スルコトヲ得

第十三條　此法律ハ北海道沖繩縣其他市制町村制ヲ施行セサル島嶼ニ之ヲ施行セス別

ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　此法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順謹勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルヽコトヲ得ス

第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコト

ヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一官廳ノ工事ヲ受負フ者

一官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一官廳ノ用品ヲ調達スル者

一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコ

トヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條　本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

官吏懲戒例

明治九年四月第三十四號達

第一條　自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條　懲戒ノ法三種トス第一譴責第二罰俸第三免職

第三條　譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條　罰俸ハ一月分拾分ノ一ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ（十三年第四號達ヲ以テ次項共改正）

俸ヲ追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

第五條　懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニアラスシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條　諸省長官ハ所屬奏任官ヲ懲戒ス

第七條　府縣奏任官ハ大政大臣之ヲ懲戒ス府縣並警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條　四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ他ノ奏任官以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

（參照）判事懲戒法參看

第九條　府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ其譴責ヲ專行スルコトヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ內務卿ニ届出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ届出ヘシ

第十條　其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖トモ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ニ處分スルコトヲ得ス

（參照）長官懲戒處分心得　明治九年四月番外達

一　各長官ハ平生其所屬官ヲ監督シ若シ過失アレハ懲戒例ニ依リ處分スヘシ

一　過失トハ過誤失錯不注意ニ出ツル者ヲ云其怠惰ニ出ツル者亦過失トス其素行脩マラスシテ官吏ノ體面ヲ汚ス者亦過失ニ准シテ懲戒ヲ加フヘシ

一　過失ノ事ニ害アル者ハ重キニ從テ論ス其事ニ害アリト云ヒ猶ホ改正スヘキ者及ヒ事ニ害ナキ者ハ輕キニ從テ論ス但其情狀ニ從ヒ輕重ヲ酌量スルハ專ラ本屬長官ノ所見ニ任ス

一　同僚ノ官吏共同シテ過失ヲ犯ス者ハ主任ノ上官省務ハ（省長察司務ハ察司長廳務ハ廳長一科一局一掛ノ事務ハ各々其主任長）其責ニ任スヘシ而シテ次官以下遞ニ從テ以テ論ス下官其造意ヲ以テ處行シ猶ホ上官ノ許可ヲ得タル者ハ上下官共ニ均ク其責ニ任スヘシ下官職權內ノ事ヲ以テ處行シタル者ハ上官其責ニ任セス若シ下官其職權ヲ越ヘ專斷處行シタル者ハ重ニ從テ論ス

一　所屬官自ラ過失ヲ覺擧シ進退伺ヲ捧クルトキハ本屬長官之ヲ推料シ其過失ニ止マル者ハ例ニ依リ處分ス其有心故造ニ涉リ司法官ニ付スヘシトスル者ハ懲戒例第十條ニ依リ長官ヨリ之ヲ司法省ニ移ス司法卿若クハ檢事其檢事ヲ若シ司法官其有心故造ニ非ス又律ニ觸レサル「ヲ判スルトキハ之ヲ本屬長官ニ還付シ長官ハ仍ホ懲戒例ニ依リ處分スルコトヲ得

一　懲戒ニ依リ免職スル者ハ二ケ年以上ヲ經ルノ後ニ非レハ再タヒ收用スルコトヲ許サス

一　懲戒ニ依ルト否トヲ論セス凡ソ免職スル者ヲ他ノ官廳ヨリ收用セントスルトキハ必ス舊本屬長官ニ通牒シテ其意見ヲ問ヒ答復ヲ得ヘシ

一　過失ニ由ラスシテ免職スル者ハ長官ヨリ旨ヲ諭シ辭表ヲ捧ケシムヘシ其旨ニ遠ヒ辭表ヲ捧ケサル者ハ直ニ免職スルコトヲ得

一　舊任中過失アル者轉任ノ後發覺若クハ自ラ覺擧スル者ハ舊任本屬長官ト通牒シテ新任本屬長官ヨリ之ヲ懲戒スヘシ

（參照）戶長職務上ノ過失ハ官吏懲戒例ニ依ル　戶長職務取扱上過失アルトキハ總テ官吏懲戒例ニ依リ處分スヘシ但明治十一年乙第八十號達第五項ハ廢止ス

（參照）官吏懲戒例ハ神官井ニ準官吏等外ヘ適用ス　本年四月第三十四號達官吏懲戒例ノ儀ニ付尚又左ノ通相達候事

一　準官吏井ニ等外吏ハ本例ニ照シテ處分シ傭其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スル者ハ本屬長官ノ見込ヲ以テ適宜處分スヘシ

一　官國幣社神官井ニ教導職ノ過失發見スルトキハ所在地方官ヨリ其狀ヲ具シテ教部省ヘ届出ヘシ（十七年第十九號布達ヲ以テ神佛教導職ヲ廢ス　十年第四號布告ヲ以テ教部省ハ廢シ事務ハ內務省ヘ附ス）

一　巡査及ヒ學校其他諸工場ノ如キ別ニ懲罰規則有之分ハ本例ノ限ニアラス

一　民費ヲ以テ俸給ニ充ル者ノ罰俸ハ各其民費ニ割民スヘシ（十一年第十九號布告ヲ以テ府縣稅民費ノ稱ヲ改メ地方稅規則ヲ定ム）

監視（刑法附則第二章）

（明治十四年十二月十九日布告第十六號）

第二十一條　監視ハ主刑ノ終タル後仍ホ將來ヲ撿束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條　監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察署ニ護送シ其警察署ヨリ住居ノ地ノ警察署ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ撿察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ（明治十五年第四十二號ヲ以テ全條改正）

第二十三條　犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書謄本ヲ附ス可シ

第二十四條（同上布告ヲ以テ削除ス）

第二十五條　警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ犯人ヲ淹滯シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

第二十六條　犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視期限間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監

視ノ票ヲ下付スヘシ

第二十七條　監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一毎月二度所轄ノ警察所ニ至リ其謹慎ナルヿヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヿヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヿ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヿヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條　監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨撿スルコトアルヘシ

第二十九條　警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條　他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與スヘシ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納スヘシ

第三十一條　旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時滯滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ証書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出スヘシ

第三十二條　監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條　懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ監視ヲ執行セシムル可シ

第三十四條　刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ幷ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條　罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條　監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條　假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

(參照)刑法第百五十五條　監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

横濱正金銀行條例

明治二十年七月六日
勅令第二十九號

第二十七條　横濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第一條　横濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負擔ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　横濱正金銀行ハ本店ヲ横濱ニ設置ス又外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條　横濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日則チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十ヶ年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條　横濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增減ヲ請願スルコトヲ得

第五條　横濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條　横濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條　横濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　外國ノ爲替及荷爲替

第二　內國ノ爲替及荷爲替
第三　貸付
第四　諸預金及保護預
第五　爲替手形約束手形其他諸證劵ノ割引又ハ其代金取立
第六　貨幣ノ交換
第八條　横濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得
第九條　横濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ
第十條　横濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス
第十一條　横濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動產株劵其他ノ物件ヲ買取リ又ハ引受クルコトヲ得ス
第一　銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ
第二　貸金返濟ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ
第三　貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ
第十二條　横濱正金銀行ハ本行ノ株劵ヲ抵當ニ取リ又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返濟ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取リ又ハ引受クルハ此限ニ在ラス

第十三條　第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動產株劵其他ノ物件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以內ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得
第十四條　横濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ
第十五條　横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選擧シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラルヽ者モ亦同シ（二十二年三月五日勅令第十號ヲ以テ本條ヲ改正シ六月一日ヨリ施行ス）
第十六條　頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ横濱正金銀行頭取ヲ兼ネシメ又ハ横濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼ネシムルコトアルヘシ
銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス
第十七條　横濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定欵ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ
又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得
株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ
第十八條　毎半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ

受クヘシ

第十九條　毎半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一　資本金ノ損失ヲ補フコト

第二　配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條　貸金返濟ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條　横濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戻シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條　横濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得（仝上）

第二十三第　大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ横濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ（仝上）

第二十四條　横濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出ヘシ

第二十五條　横濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重役ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ押捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルヲ要セス

第二十六條　横濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正增補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

豫戒令

明治二十五年一月二十八日
勅令第十一號

第四條　豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規定ニ違犯シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違犯者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違犯者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルモノハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ違犯者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得

一　一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論ヲ事トスル者

二　總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者

三　公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタ

ル者

四　第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者

（參照）第二條　豫戒命令ハ左ノ如シ

一　一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス

二　總テ他人ノ開設スル集會ニ立入リ妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

三　如何ナル口實ニ拘ハラス財物ヲ强請シ不當ノ要求ヲ爲シ强テ面會ヲ求メ脅迫ニ渉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送リ又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

四　人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ同條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條　豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第七條　豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第九條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

帶刀禁止及違犯者處分方

明治九年三月二十八日
布告第三十八號

自今大禮服着用並ニ軍人及警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

兌換銀行券條例

明治十七年五月十六日
布告第十八號

第十二條　兌換銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法僞造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

此條例ハ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

（參照）刑法第二編第四章　信用ヲ害スル罪

第一節　貨幣ヲ僞造スル罪

第百八十二條　內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ僞造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條　內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條　官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ僞造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十六條　前數條ニ記載シタル貨幣ノ僞造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ僞造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條　貨幣僞造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタ

ル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條　貨幣ヲ僞造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ僞造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條　僞造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ僞造變造ノ刑ニ同シ

第九十條　僞造變造ノ情ヲ知テ其貨幣取受シ之ヲ行使シタル者ハ僞造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條　前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第九十二條　貨幣ヲ僞造變造シ及輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條　貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ僞造又ハ變造ナルヿヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヿヲ得ス

兌換銀行券ノ贋造描改ニ係ル分取扱方

明治十九年九月二日大藏省令第二十八號

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贋造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年四月第五十七號布告贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年五月當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ

但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ

（參照）贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則第五條　贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

仝第二條　鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ

變造紙幣處分法　明治九年五月八日大藏省布達甲第十二號　本年四月太政官第五十七號公布贋造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓貳圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ竪横ノ寸法同樣ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ贋製ノ品トモ異ナリ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハヽ裏面ノ紋色裏面ノ紋色ヲ分ツ及ヒ描改ノ證ヲ所持人ヘ明示シ其儘警察出張所等ヘ差出同所ニ於テハ右紙幣ノ原因其外取糺處分相濟候ハヽ引揭切ニ取計

兌換銀行券ノ贋造描改ニ係ル分取扱方

「紙幣類」ハ相消候積ト可相心得此旨布達候事
（裏面彩紋略之）

日本銀行發行贋造描改ノ兌換銀行券取扱方

明治十九年九月二日大藏省訓令第四十二號

當省令第二十八號贋造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年十一月當省令乙第四十號達ニ準據スヘシ

鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方　但書　紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖トモ贋模ノモノニ付右ハ贋札ヲ以テ處分可致候

銀行紙幣贋造描改處分　銀行紙幣贋造札描改札處分方ノ儀ハ明治九年四月第五十七號布告及ヒ仝年五月當省甲第十二號布達同年五月當省乙第四十號達ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添ヘ銀行局ヘ可屆出儀ト可相心得且又右第五十七號布告規則第二條ニ依リ引換フヘキ正紙幣ヲ改人ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店（其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ）ヘ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直ニ其改人ヘ交付可爲致此旨相達候也

（參照）罰則處斷方參看

第三種郵便物認許規則

明治二十五年二月五日
逓信省令第四號

第六條　第四條ノ届出ヲ期限内ニ爲サヽル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第四條　認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人（代表人）ヨリ七日以内ニ届出ツヘシ

一　題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ
　但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ
　又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ

二　發行人轉居又ハ變更ノトキ
　但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ

三　廢刊休刊又ハ發行禁止若クハ停止ノトキ

煙草税則

明治二十一年四月六日
勅令第二十號

第二十三條　營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者亦同シ

（明治廿九年三月廿七日法律第三十四號ヲ以テ改正）
（明治三十年一月一日ヨリ施行ス）

（參照）第十五條　何人ニテモ製造人ニ屬セラルヽノ外人ノ依賴ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條第二項　煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第二十四條　第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

（參照）第九條　製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十八條　煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條　帳簿ノ記載ヲ僞リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條　第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

（參照）第四　條煙草營業者ノ仕入賣渡ヲ爲シ又ハ家屋屋人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第二十一條　煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十七條　第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ墮流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ墮流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

（參照）第十二條　煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條　煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ受クルハ此限ニアラス

第十四條　煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十七條　煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第二十八條　第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

（參照）第十六條第一項　煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十條　鑑札ハ賣買貸借及讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裏ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

（參照）海軍刑法參照參看

第三十二條　煙草營業者ノ家族雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖瘂ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十四條　此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第三十五條　沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此從

則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此税則ニ從フヘシ

煙草税則施行細則

明治二十一年四月二十六日 大蔵省令第三號

第二十九條　第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス（明治廿四年四月大蔵省令第七號ヲ以テ本條中刪除）

（參照）第一條　税則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出スヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

煙草税則明治二十一年四月六日第二條　煙草營業ヲ始サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

勅令第二十號

第三條　煙草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及雇人弟子職工ノ數（職工ハ其住所氏）ヲ其府縣ノ租税檢査員派出所ニ届出ツヘシ但異動ヲ生シタル時ハ其時々之レヲ届出ツヘシ

第六條　煙草營業者ハ其營業場外ニ住居スルトキハ其家屋又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租税檢査員派出所ニ届出ヘシ

第九條　製造煙草ノ包裹毎一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草毎一包(函)ニ付

百匁入
八十匁入
六十匁入
五十匁入
四十匁入
三十匁入
二十匁入
十五匁入
十匁入
五匁入

巻煙草毎一包(函)ニ付

二百本入
百本入
五十本入
二十本入
十本入
六本入

第十條　税則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入リ又ハ紙包入リトシ其包裏ノ接キ目合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固著シテ貼用印紙ヲ破毀セサレハ煙草ヲ取リ出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造煙草毎個ノ量目本數定價氏名住所及製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裏ノ表面ニ記入スヘシ

煙草營業人ニ於テ所持ノ製造煙草ヲ定價以上ニ賣捌カントスルトキハ原製造人ニ托シ定價ヲ改メ改正定價ニ相當スル印紙ヲ增貼セシムヘシ(明治廿六年二月十三日大藏省令第二號ヲ以テ追加)本項

煙草税則第八條　煙草製造人煙草製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

仝第九條　製造煙草ハ一定ノ包裏ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十四條　煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裏ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　税則第九條(前ニ記載アリ)貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黑肉ヲ以テ其包裏封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十八條　煙草製造人仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵壹「カマス」又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類量目及ヒ買入レタル番號年月日賣リ預リ主ノ住所資格氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條　煙草營業者ハ第三條ニ依リ租税檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ煙草職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條　煙草營業者又ハ煙草耕作人煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條　煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　葉煙草ノ種類番號荷造ノ區別箇數量目荷數荷送受主ノ氏名住所

一　製造煙草ノ種類包裏ノ區別箇數荷送受主ノ氏名住所

第二十二條　煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ紙印賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置ケヘシ

一　印紙賣渡ノ年月日

一　印紙ノ種類枚數

一　賣捌人氏名住所

第二十六條　代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以內ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一　代替書換ハ六十日間

一　其他ノ書換再渡ハ十日間

煙草稅則第五條　鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料　一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑛札料　一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料　一枚ニ付金十錢

第二十七條　煙草稅則及此規則ニ揭クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第三十條　稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裏ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條（前揭看合）ノ手續ニ從フヘシ

煙草稅則第三十八條　此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委托シ又ハ自ラ包裏ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

仝第三十九條　此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以內ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委托シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裏ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十一條　從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

臺灣銀行法

明治三十年三月三十日
法律第三十八號

第二十六條　臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一　第六條ノ規定ニ反シ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二　第九條ノ規定ニ反シ手形ヲ發行シタルトキ

三　第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ

（參照）第五條　臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第一　爲換手形其ノ他商業手形ノ割引

第二　爲換及荷爲換

第三　平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲換手形金ノ取立

第四　確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ動産ヲ質トスル貸付

第五　諸預リ金及當座貸越勘定

第六　金銀貨貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七　地金銀ノ賣買

第八　他銀行ノ業務代理

右之外營業ノ都合ニ由リ國債證券地方債券又ハ勸業債券農工債券ヲ買入ルヽコトヲ得

第六條　臺灣銀行ハ此法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　臺灣銀行ハ無記名式一覽拂ノ手形發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ

前項準備ニ依レル外無記名式一覽拂ノ手形ヲ發行セムトスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣證券兌換銀行券又ハ其他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ發行額ハ前項準備ニ依レル發行額ニ超過スルコトヲ得ス

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ無記名式一覽拂ノ手形ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ紙幣證券兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ

第二十條　臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ欠損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシム爲メ利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

種牡馬撿査法

明治三十年三月二十四日
法律第十二號

第一條　牡馬ハ此ノ法律ニ依リ撿査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス

第二條　撿査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ

第三條　證明書ノ効力ハ滿一ケ年トス

前項期限內ト雖トモ疾病其他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ効力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五條　此法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス

第七條　撿査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ効力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第九條　此法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其免許期限間効力ヲ有スルモノトス

第十條　此法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

種牡馬撿査法施行細則

明治三十年五月十日
農商務省令第四號

第十五條　第六條第一項第七條第八條第九條第十條及第十二條第二項ニ違背シタル者ハ一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

（參照）第六條第一項　證明書其効力ヲ失ヒ若クハ取消サレタルトキハ該證明書ノ所有者ハ三十日以上ニ之ヲ地方長官ニ返納スヘシ

第七條　種牡馬ノ種付ヲ爲ストキハ其所有者又ハ管理人ハ證明書ヲ携帶スヘシ

證明書ハ當該官吏又ハ牡馬所有者若クハ管理人ヨリ其閲覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　證明書ヲ毀損亡失シ若クハ證明書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其書換若クハ再渡ヲ地方長官ニ願出ヘシ

第九條　種牡馬ノ所有者又ハ管理人ハ帳簿ヲ調製シ種付牡馬ノ種類年毛齢色體尺特徴種付年月日及其所有者ハ管理人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十條　牡馬所有者又ハ管理人ニ於テ産駒ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　地方長官ハ毎年一回以上主任官吏ヲシテ種牡馬ノ狀況産駒ノ成蹟及第九條ノ帳簿ヲ撿査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ其撿査ヲ拒ムコトヲ得ス

造船奬勵法

明治二六年十號法律第十九年三月二十三日

第五條　詐僞ノ所爲ヲ以テ造船奬勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船奬勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

（參照）海軍刑法參照參看參

第六條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

（參照）海軍刑法參照參

第七條　前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條　此法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

通貨及證券摸造取締法

明治二十八年四月五日
法律第二十八號

第二條　前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

（參照）第一條　貨幣政府發行紙幣銀行紙幣兌換銀行券國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三條　第一條ニ揭ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條　第一條ニ揭ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

（參照）贋造金銀銅貨紙幣等取取扱規則第五條　贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

（參照）罰則處斷方參看

內國船難破及漂流物取扱規則

明治八年四月二十四日
布告第六十六號

第二十七條　浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈沒ト僞リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ

第二十八條　凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其ノ他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ隱匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ

第三十六條　凡ソ漂著物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ私用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シ處分スヘシ

(參照)罰則處斷方參看

臘虎膃肭獸獵法

明治二十八年三月廿四日
法律第第十號

第三條　軍艦々長警察官吏税關官吏其他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ救令ノ定ムル所ニ依リ臘虎膃肭獸獵船獵具及獵獲物ノ檢査ヲ行ヒ犯則者ト認ムヘキ者及船員ヲ拘留シ獵船々具獵具船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

第四條　禁獵區内又ハ禁獵期間ニ於テ獵虎膃肭獸ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船々具獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條　獵船獵具獵法ノ制限及牝牡年齡ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船獵具及獵獲物ノ檢査ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　第一條ノ免許ヲ受ケスシテ臘虎膃肭獸ヲ獵獲シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

（參照）第一條　臘虎膃肭獸ヲ獵獲セントスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第七條　第四條第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其代價ヲ追徵ス

第八條　此法律ハ明治廿九年一月一日ヨリ施行ス

農工銀行法

明治二十九年四月十八日
法律第八十三號

第三十二條　農工債券ヲ僞造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其模造ニ關シテハ明治廿八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

（參照）刑法第二百四條　公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ルトキハ一等ヲ加フ

通貨及證券模造取締法第一條　貨幣政府發行紙幣銀行紙幣兌換銀行券國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

仝第二條　前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十六條　農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二　第八條ノ規定ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三　第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四　第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五　第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第二項ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス

六　第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲サヽルトキ

七　第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

（參照）第六條　農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一　三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二　年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ低當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

三　市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無低當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

四　二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ限リ無低當貸付ヲ爲スコト

第八條　農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徴スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其舊債ヲ償還スル効果

ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十五條　農工銀行ハ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第二十六條　農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十七條　農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第二十八條　農工銀行ハ農工債券借換ノ爲メ一時第二十六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第三十條　農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滯シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滯金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十四條　農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ欠損ヲ補フ爲メ利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲メ利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條　前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其責任ヲ負フ

軍港要港規則違犯者處分方

明治廿三年九月十二日　法律第八十三號

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）軍港要港ニ關スル件　軍港要港境域内ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ

但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ内務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

横須賀軍港規則　明治二十九年四月　海軍省第六號

第一條　横須賀軍港内ノ海面ハ別圖ノ如ク之ヲ三區ニ分チ朱一線以内ヲ第一區ト稱シ第一區以外朱二線以内ヲ第二區ト稱シ第二區以外黑線以内ヲ第三區ト稱ス

第二條　軍港内ニ入港セントスル艦船ハ軍港外三海里以外ノ處ヨリ投錨ノ地點マテ各自ノ艦船名符字信號旗ヲ掲揚スヘシ

第三條　第三區ニ於テハ航路ノ妨ケトナラサル限リハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得

第四條　第一區ハ十五噸以下ノ帝國海軍所屬舟艇ノ外鎮守府司令長官ノ許可ナクシテ進入スルコトヲ禁ス

第五條　第二區以内ニ進入スル艦船ハ錨泊繫留ニ關シテハ十五噸以下ノ舟艇ヲ除クノ外總テ知港事ノ指示ニ從フヘシ但風波避難ノ際ニハ知港事ノ指示ヲ待タス適意ノ錨地ニ就クコトヲ得

第六條　鎮守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ艦船ニ錨地ノ轉換ヲ命シ或ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　凡テ艦船ハ爆發藥火藥炸藥彈其他危險物ヲ積載セシ儘第一區ニ進入シ又ハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ碇泊スルコトヲ禁ス但鎮守府司令長官ニ於テ無害ト認定スルモノハ此限ニアラス

第八條　小蒸滊船又ハ焚火シタル解舟其ノ他總テ之ニ類似ノ火氣ヲ有スルモノハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ接近スルコトヲ禁ス軍港境域内ノ山林ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第九條　第二區及第三區ニ於テハ禮砲號報及鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノヽ外銃砲水雷其他爆發物ヲ發火スルコトヲ禁シ第一區ニ於テハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノヽ外總テ發放スルコトヲ禁ス軍港境域内ノ陸地ニ於テハ濫リニ發放スヘカラス

第十條　第二區以内ニ於テハ物品灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スルコトヲ禁ス艦船ニ於テ遺棄物アリテ其用ニ供スル解船ヲ要スルトキハ之ヲ知港事ニ請求スヘシ但第三區ト雖モ有害ト認ムル場所ニハ以上ノ物品等ヲ遺棄スルコトヲ禁シ臨時其ノ場所ヲ指示スルコトアルヘシ

第十一條　第二區以内ノ海岸及同區以内ニ注入スル河流ニハ品物灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スヘカラス

第十二條　第一區ニ於テハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ漁業ヲ爲スヘ

カラス

第十三條　傳染病者アル船舶ハ軍港内ニ進入スルコトヲ禁ス

第十四條　軍港内ニ於テ左ニ掲クル工事ヲ起シ又ハ營業ヲ爲サントスル者アルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ニ協議シ許否スヘシ

一　棧橋ヲ架設シ波止場ヲ築造スルコト

二　海面ヲ埋立海岸ヲ堀鑿シ又ハ海岸ニ石垣ヲ築造スル事

三　道路溝渠ヲ開通シ又ハ橋梁ヲ架設スル事

四　山岡ヲ堀鑿スル事

五　森林ヲ伐採スル事

六　軍港ニ發着スヘキ航海ノ營業ニ關スル事

七　浮標又ハ立標ヲ設置スル事

第十五條　鎮守府司令長官ノ承認ヲ得スシテ軍港内ノ測量撮影製圖ヲ爲シ又ハ地理案内等ノ圖書ヲ出版スルコトヲ禁ス

第十六條　地方長官ハ軍港内衛生ノ事ニ關シテハ地方吏員ヲシテ鎮守府軍醫長ニ協議セシムヘシ

第十七條　鎮守府司令長官ハ海軍官廳構内其ノ他軍港取締上必要ノ場所ニハ人民ノ通航ニ制限ヲ置クコトヲ得

第十八條　軍港内ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

（別圖）

吳軍港規則 明治二十九年四月 海軍省令第七號

第一條　吳軍港內ノ海面ハ別圖ノ如ク之ヲ二區ニ分チ朱線以內ヲ第一區ト稱シ第一區以外黑線以內ヲ第二區ト稱ス

第二條　軍港內ニ入港セントスル艦船ハ其境域內ニ進入ノトキヨリ投錨ノトキマテ又軍港內ヲ通航スルトキハ其通航間各自ノ艦船名符字信號旗ヲ揭揚スヘシ

第三條　第二區ニ於テハ航路ノ妨ケトナラサル限リハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得

第四條　第一區ハ帝國海軍艦船ノ外鎭守府司令長官ノ許可ナクシテ進入スルコトヲ禁ス

第五條　第一區ニ進入スル艦船ハ錨泊繫留ニ關シテハ十五噸以下ノ舟艇ヲ除クノ外總テ知港事ノ指示ニ從フヘシ但風波避難ノ際ニハ知港事ノ指示ヲ待タス適意ノ錨地ニ就クコトヲ得

第六條　海軍兵學校前面即チ別圖朱點線以內ニ於テハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ帝國軍艦ノ外船舶ヲ碇繫スルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地內ニ於テ赤旗ヲ揭ケタルトキハ總テ船舶該朱點線以內ヲ通航スルコトヲ禁ス

第七條　鎭守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ艦船ニ錨地ノ轉換ヲ命シ或ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　凡テ艦船ハ爆發藥火藥炸藥彈其他危險物ヲ積載セシ儘第一區內ノ棧橋及陸地ニ接シテ繫留シ又ハ火藥庫ヲ距ル百三十間以內ニ碇泊スルコトヲ禁ス但鎭守府司令長官ニ於テ無害ト認定スルモノハ此限ニアラス

第九條　小蒸滊船又ハ焚火シタル艀舟其ノ他認テ之ニ類似ノ火氣ヲ有スルモノハ火

藥庫ヲ距ル百三十間以內ニ接近スルコトヲ禁ス

軍港境域內ノ山林ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第十條　第一區ニ於テハ禮砲號報及鎭守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノヽ外砲銃水雷其ノ他爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス

軍港境域內ノ陸地ニ於テハ濫リニ發放スヘカラス

第十一條　第一區ニ於テハ物品灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スルコトヲ禁ス艦船ニ於テ遺棄物アリテ其ノ用ニ供スル艀船ヲ要スルトキハ之ヲ知港事ニ請求スヘシ但第二區ト雖有害ト認ムル場所ニハ以上ノ物品等ヲ遺棄スルコトヲ禁シ臨時其場所ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二條　第一區內ノ海岸及同區內ニ注入スル河流ニハ物品灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スヘカラス

第十三條　第一區及海軍兵學校前面即チ別圖朱點線以內ニ於テハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ漁業ヲ爲スヘカラス

第十四條　傳染病者アル船舶ハ第一區及海軍兵學校前面即チ別圖朱點線以內ニ進入スルコトヲ得ス

第十五條　軍港內ニ於テ左ニ揭クル工事ヲ起シ又ハ營業ヲ爲サントスル者アルトキハ地方長官ハ鎭守府司令長官ニ協議シ許否スヘシ

一　棧橋ヲ架設シ波止場ヲ築造スルコト

二　海面ヲ埋立海岸ヲ堀鑿シ又ハ海岸ニ石垣ヲ築造スル事

三　道路溝渠ヲ開通シ又ハ橋梁ヲ架設スル事

四　山岡ヲ堀鑿スル事

五　森林ヲ伐採スル事

六　軍港ニ發著スヘキ航海ノ營業ニ關スル事

七　浮標又ハ立標ヲ設置スル事

第十六條　鎭守府司令長官ノ承認ヲ得スシテ軍港内ノ測量撮影製圖ヲ爲シ又ハ地理案内等ノ圖書ヲ出版スルコトヲ禁ス

第十七條　地方司令長官ハ軍港内衛生ノ事ニ關シテハ地方吏員ヲシテ鎭守府軍醫長ニ協議セシムヘシ

第十八條　鎭守府司令長官ハ海軍管廳構内其他軍港取締上必要ノ場所ニハ人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

第十九條　軍港内ノ取締ニ關スル細則ハ鎭守府司令長官之ヲ定ムヘシ

（別圖）

佐世保軍港規則明治二十九年四月十一日

海軍省令第八號

第一條　佐世保軍港内ノ海面ハ別圖ノ如ク之ヲ二區ニ分チ朱線以内ヲ第一區トシ第一區以外黑線以内ヲ第二區ト稱ス

第二條　軍港内ニ入港セントスル艦船ハ軍港外三海里以外ノ處ヨリ投錨ノ地點迄各自ノ艦船名符字信號旗ヲ揭揚スヘシ

第三條　第二區ニ於テハ航路ノ妨ケトナラサル限リハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得

第四條　第一區ハ帝國海軍艦船ノ外鎭守府司令長官ノ許可ナクシテ進入スルコトヲ禁ス

第五條　第一區ニ進入スル艦船ハ錨泊繫留ニ關シテハ十五噸以下ノ舟艇ヲ除クノ外總テ知港事ノ指示ニ從フヘシ但風波避難ノ際ニハ知港事ノ指示ヲ待タス適意ノ錨地ニ就クコトヲ得

第六條　鎭守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ艦船ニ錨地ノ轉換ヲ命シ或ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　凡テ艦船ハ爆發藥火藥炸彈其他危險物ヲ積載セシ儘第一區内ノ棧橋及陸地ニ接シテ繫留シ又ハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ碇泊スルコトヲ禁ス但鎭守府司令長官ニ於テ無害ト認定スルモノハ此限ニアラス

第八條　小蒸滊船又ハ焚火シタル艀船其ノ他總テ之ニ類似ノ火氣ヲ有スルモノハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ接近スルコトヲ禁ス

第九條　第一區内ニ於テハ禮砲號報及鎭守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノヽ外砲銃軍港境域内ノ陸地ニ於テハ濫リニ發火スルコトヲ禁ス

水雷其他爆發物ヲ發放スヘカラス

第十條　第一區ニ於テハ物品灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スルコトヲ禁ス艦船ニ於テ遺棄物アリテ其用ニ供スル艀舟ヲ要スルトキハ之ヲ知港事ニ請求スヘシ但第二區ト雖有害ト認ムル場所ニハ以上ノ物品等ヲ遺棄スルコトヲ禁シ臨時其場所ヲ指示スル

コトアルヘシ

第十一條　第一區内ノ海岸及同區内ニ注入スル河流ニハ物品灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スヘカラス

第十二條　第一區内ニ於テハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ漁業ヲ爲スヘカラス

第十三條　傳染病者アル船舶ハ第一區内ニ進入スルコトヲ禁ス

第十四條　軍港内ニ於テ左ニ掲クル工事ヲ起シ又ハ營業ヲ爲サントスル者アルトキハ地方長官鎮守府司令長官ニ協議シ許否スヘシ

一　棧橋ヲ架設シ波止場ヲ築造スル事

二　海面ヲ埋立海岸ヲ堀鑿シ又ハ海岸ニ石垣ヲ築造スル事

三　道路溝渠ヲ開通シ又ハ橋梁ヲ架設スル事

四　山岡ヲ堀鑿スル事

五　森林ヲ伐採スル事

六　軍港ニ發著スヘキ航海ノ營業ニ關スル事

七　浮標又ハ立標ヲ設置スル事

第十五條　鎮守府司令長官ノ承認ヲ得スシテ軍港内ノ測量撮影製圖ヲ爲シ又ハ地理案内等ノ圖書ヲ出版スルコトヲ禁ス

第十六條　地方長官ハ軍港内衛生ノ事ニ關シテハ地方吏員ヲシテ鎮守府軍醫長ニ協議セシムヘシ

第十七條　鎮守府司令長官ハ海軍官廳構内其他軍港ヲ取締上必要ノ場所ニハ人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

第十八條　軍港内ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

（別圖）

竹敷要港規則　明治二十九年八月八日　海軍省令第十三號

第一條　竹敷要港ノ海面ヲ二區ニ分チ別圖朱線以内ヲ第一區ト稱シ朱線以外ヲ第二區ト稱ス其日本海ニ面スル方面ノ海面ハ第二區トス

第二條　要港ニ入ラントスル艦船ハ要港外三海里以外ノ所ヨリ投錨若クハ繫止スル地點マテ萬國信號旗ヲ以テ信號符字ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ

第三條　第二區ニ在リテハ航路ノ妨ケトナラサル限リハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得

第一區ニアリテハ艦船ノ進退ハ知港事ノ指示ニ從フヘシ但天災等ノ事故ニ依リ危急ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第四條　要港部司令官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換若クハ港外ヘ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　凡テ艦船ハ要港部司令官ノ特別ノ許可アルモノヽ外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ進入スルコトヲ禁ス流罐點火中ノ小蒸滊船及其他一切ノ火氣ヲ有スル船舟亦仝シ

要港ノ山林原野ニ於テ濫リニ焚火スヘカラス

軍港要港規則違犯者處分法

第六條　要港ニ於テハ禮砲號報及要港部司令官ノ特許ヲ得タルモノヽ外銃砲及水雷ノ發射其他一切ノ爆發物ヲ發火スルコトヲ禁ス

第七條　第一區ノ海面及之ニ注入スル水流ニハ一切ノ浮流物竝ニ洗濯物ヲ遺棄スルコトヲ禁ス

艦船ノ遺棄物ハ知港事ヨリ出ス所ノ塵芥船ニ移スカ若クハ各自ニ處分スヘシ

第八條　海軍用地ヲ距ル五百間以内ノ海面ニ在リテハ要港部司令官ノ特許アルトキノ外一般人民ノ漁業ヲ禁ス

第九條　現ニ傳染病者アルカ若クハ傳染病發生シテ未タ消毒ヲ終ラサル艦船ハ要港ニ入ルコトヲ禁ス

第十條　要港ニ於テ左ニ掲クル工事ヲ起シ又ハ營業ヲ願出ツル者アル時地方長官ハ要港部司令官ニ協議シ許否スヘシ

一　棧橋ヲ架設シ波止場ヲ築造スル事

二　海面ヲ埋立海岸ヲ堀鑿シ又ハ海岸ニ石垣ノ築造スル事

三　道路溝渠ヲ開通シ又ハ橋梁ヲ架設スルコト

四　山岡ヲ堀鑿スル事

五　森林ヲ伐採スル事

六　要港ニ發著スヘキ航海ノ營業ニ關スル事

七　浮標又ハ立標ヲ設置スル事

第十一條　要港部司令官ノ承認ヲ得スシテ要港内ノ測量撮影及製圖ヲ爲シ又ハ地理

及水路案内等ノ圖書ヲ出版スルコトヲ禁ス

第十二條　地方長官ハ要港内衛生ノコトニ關シテハ要港部司令官ニ協議スヘシ

第十三條　要港部司令官ハ海軍用地内及之ニ近接スル一般公路ノ取締上必要ノ場合ニハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

第十四條　要港ノ取締ニ關スル細則ハ要港部司令官之ヲ定ム

（圖面ハ略之）

軍用電信法

明治二十七年六月五日
法律第五號

第一條　軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス

第三條　軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一　固定軍用電信

二　遊動軍用電信

第五條第二項　遊動軍用電信ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコトヲ得其ノ徵用及損害賠償ノ手續竝徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス

（參照）本書徵發令參看

第八條　刑法第百六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第五十八條乃至第六十三條及第七十一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

（參照）刑法第百六十四條　電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサルトキハ一等ヲ減ス

電信條例第五十八條　電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

仝第五十九條　疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱木條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ妨害シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

仝第六十條　電信ノ柱木條線ニ紙鳶ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ柱木及測量標木ニ獸蓄ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

仝第六十一條　政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ堀鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定シタル電信線ノ號標離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

仝第六十二條　僞計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

仝六十三條　已レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

仝第七十一條　疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滯シタル者ハ一圓以

上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條　軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條乃至第六十三條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條　軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及第六十二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ刑法ノ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(參照)海軍刑法參照參看

勳章記章ニ類似ノ標章佩用禁止

明治廿八年八月十六日
勅令第百十八號

勳章又ハ救命ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ拾錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勳章記章並ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スル限ニ非ラス

勳章年金褫奪停止

明治十六年六月第二十二號布告

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋責付セラレタル時ハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ス又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受クルコトヲ得ス

（參照）勳章年金褫奪及停止取扱手續第一條　勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ルヽトキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項　重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項　賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項　懲戒例及免黜條例ニヨリ免官セラレタル者（二十一年勅令第九十一號陸海軍將校分限令ヲ以テ免黜條例ヲ廢ス）

第四項　素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

陸軍將校分限令（明治二十一年十二月勅令第七十九號ヲ以テ廢ス）

海軍將校分限令（明治廿四年七月勅令第七十九號）

勳章年金褫奪及停止取扱手續

明治十九年七月
閣令第十九號

第二條　第一條第一項ニ觸ルヽ者輕罪ヲ犯シタル者ナルキトハ裁判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

（參照）第一條第一項　重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニ依ル

普通刑法第三十一條　剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一　國民ノ特權　　二　官吏ト爲ルノ件

三　勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四　外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權　　五　兵籍ニ入ルノ權

六　裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七　後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八　分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九　學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

陸軍刑法第二十八條　剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

仝第二十九條　重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

海軍刑法第十七條　剝奪公權ハ普通刑第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

藥品營業並藥品取扱規則

明治二十二年三月十五日　法律第十號

第一條　藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二十條　藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十三條　製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第三十九條　官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第十六條　處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十八條　毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アル者ハ此限ニアラス

第二十二條　毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第二十五條　毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第二十六條　日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀品質該局方ノ所定ニ適合スル

モノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條　日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ檢査ヲ經其試驗成蹟ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第三十條第一項　毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其職名量數使用ノ目的年月日及住所氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第四十條　第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

（參照）第十一條　藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但シ支局ヲ設タルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十四條第一項　藥劑師ハ患者氏名、年齡、藥名、分量、用法、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

第十七條　毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十九條　患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ內外用ノ別、用法、用量、年月日患者ノ氏名藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二十九條　毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條第二項　前項（第三十九條參照參看）ノ證書ハ其日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條　毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條　毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第四十一條　第六條第八條第十條十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

（參照）第六條　藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第八條　藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以內ニ地方廳ニ屆出ヘシ

第十條　藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以內ニ地方廳ニ屆出ツヘシ

第十二條　藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條　藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條第二項　藥劑師ハ調劑錄ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條　處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條　藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十四條　製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十八條　藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第三十六條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅甸語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ於テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

藥品ノ封緘ニ衛生試驗所ノ檢査印紙ニ紛ハシキ者及衛生試驗所等ノ文字ヲ使用スルヲ得サル件

明治三十年三月九日
内務省令第二號

本令ニ違背シタル者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

（參照）藥品ノ封緘ニ印紙ヲ貼付スル者ハ明治二十年六月内務省告示第二號衛生試驗所檢査印紙ト全色若クハ之ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ用ヒ封緘ヲ爲スコトヲ得ス

藥品其他飲食物ノ檢査ヲ以テ營業トスル者ハ其檢査ノ名稱又ハ名稱ノ附記ニ衛生試驗所又ハ同音ノ文字ヲ使用スルコトヲ得ス

本令施行前其ノ檢査所ノ名稱又ハ名稱ノ附記ニ衛生試驗所又ハ同音ノ文字ヲ使用シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ改稱スヘシ

衛生試驗所藥品檢査印紙明治二十年六月二十日内務省令告示第二號

衛生試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニハ左ノ檢査印紙ヲ貼用ス

但當分ノ内元衛生局試驗所檢査印紙ヲ取交貼用ス

小形印紙雛形

右印紙大中小最小形ノ四種トス

藥品ノ封緘ニ衛生試驗所ノ檢査印紙ニ紛ハシキ者及衛生試驗所等ノ文字ヲ使用スルヲ得サル件

本令ハ明治三十年六月一日ヨリ施行ス

憲兵職務ニ關シ又ハ其職務ニ對スル犯罪處斷方

明治十五年十二月第七十三號布告

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

決鬪罪

明治二十二年十二月二十八日
法律第三十四號

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　決鬪ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

（參照）海軍刑法參照參看

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

（參照）刑法第三百五十八條　惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類圖畫ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條　死者ヲ誹毀シタル者ハ訴訟ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヿヲ得ス

第三百六十條　醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ牌官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條　此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

檢疫停船規則

明治十二年七月二十一日
太政官第二十九號布告

第二十三條　此規則ニ背キ或ハ從フヿヲ拒ム者ハ犯スコトニ二百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムトキハ毎犯罰金五百圓ニ至ルマテ增加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ

但シ罰金ハ科セサルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脫去スル者ハ（船又ハ人）罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

（參照）第一條　日本政府虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカタメ並ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルヿヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ命スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條　中央衛生會ニテ決スル所ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫師化學士及相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ增減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ遠ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條　政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所并ニ停留セラレタル人ノ爲メ都テ必需ノ具ヲ備タル屋舍ヲ設置スヘシ

第四條　檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前檢査ノ爲メ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名派出シテ之ヲ檢査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ訊問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ檢査ヲ受クヘシ但シ艙ハ航海中船客又ハ乘組人ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルトキハ其檢査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乘組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヿヲ得ヘシ

第五條　虎列刺病流行セサル港又ハ其擬ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直ニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ滿足セシムルトキハ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ檢査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ

ヽルトキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條　船内ニ眞性虎列病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルトモ差支ナキヲ認ムルトキハ此限リニアラス

右七日ノ期該船來著ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルトキハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ特ニ危險ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及疑似症ヲ發スルトキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條　有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシヿ無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中船内ニ眞正虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシコト無キ旨ヲ明告スルトキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サヽルトキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

檢疫停船規則

第八條　船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ

船舶來港前病毒消滅シ而テ檢疫官吏ノ滿足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ消毒法施行後停船中眞正虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尚三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルトキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

第九條　前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來著スルニ方リ其乘組ノ患者未タ癒エサレハ其患者及死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

容體ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ濟マサルトキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ

船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條　有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫

處置ヲ受ケサル船舶ハ直ニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條　定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ著港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヿヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ

第十二條　病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ

病院或ハ碇泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス

第十三條　船中ニ於テ眞正虎列刺病若クハ類似症ヲ發スルコトナキトキハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置クコトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サルヽヿアルヘシ

第十四條　檢疫停船規則施行ノ港ニ來著スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルトキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ經ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條欵ヲ實施スヘシ布

第十五條　有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄リタル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ檢査ヲ經且必要ト認メ

タル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ルヽ毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ

又該船内ニ眞正虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルトキハ該船又ハ其乘込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但該船内ヨリ上陸スル者アル時ハ他船ニテ到著シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條　船舶ノ檢査ハ其來著後成ルヘク遠ニ施行スヘシ若シ來著後十二時間ヲ過キテ檢査ヲナサヽル時ハ入港スルヲ得ヘシ但其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐僞ニ出ツルカノ時ハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタル時檢査ヲ僞スヘシ

第十七條　地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條　檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇舶中船内ニ眞正虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直チニ第八條條九條ノ規則ニ從フヘシ然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ノミノ消毒及ヒ檢査ノ方法ヲ反復施行スヘシ

第十九條　虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來著スル船舶檢査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲ス

ヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條　第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ狀況地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルトキハ此規則外ニ豫防ノ處制ヲ施スヿヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條　檢査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クコトヲ許サス

第二十二條　前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

刑死者ノ墓標寫眞等ニ係ル取締方

明治二十四年七月二十七日
内務省令第十一號

第四條　前各項ニ違背シタル者ハ一圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

（參照）第一條　刑死者ノ墓標ハ氏名法號族籍年齡生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異樣ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色スルコトヲ得ス

第二條　所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親戚ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニアラス

第三條　刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第五條　犯罪ニ關シ現ニ搜査起訴勾留服刑中ノ者若クハ搜査起訴勾留服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官（東京府ハ警視監總）ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ揭クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

府縣會議員撰擧規則

明治二十二年二月二十六日 法律第六號

（明治二十二年二月法律第六號府縣制實施後ハ廢止）

第五十九條　納稅額年齡其他選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サヽル者モ亦同シ

第六十一條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選擧會場ニ入リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコト